

高取町 東中谷遺跡

奈良県立橿原考古学研究所



2号墓の遺物出土状況

1. はじめに

橿原考古学研究所では、高取バイパスの建設にともなって、東中谷遺跡^{ひがしなかつに}の調査を行いました。その結果、平安時代はじめ頃に作られた古墓群の存在が明らかとなりました。

2. 調査の概要

土葬・火葬あわせて5基の古墓がありますが、最も残りの良い2号墓を中心に説明します。

2号墓は、斜面に穴を掘って木棺を埋めるに際して、木炭を充填することが特徴的です。穴の底に木棺を据えたあと、木炭と土を交互に敷き詰めて木棺を覆います。さらにその上を盛土で覆い、最終的に低い塚を形成しています。木棺を固定した鉄釘も出土しました。

副葬品には、土師器壺と銅鏡、鉄滓（製鉄の際に出るカス）があります。銅鏡は破鏡^{ひびきよう}と言って、破片を副葬したものです。直径24cm程度の大形品で、輪郭の特徴からハ花鏡と呼ばれます。鏡背には、草花の模様（瑞花）が施されています。唐で作られた鏡を日本列島に持ってきたものか、あるいはそれを模倣して日本列島で作られたのか、両方の可能性があります。いずれにせよ8世紀に製作されたことが推定できます。

このほか、火葬墓（1号墓）、土壙墓（3号墓）、木棺墓（4・5号墓）があり、多様な種類の墓で構成された古墓群であることが解りました。

3. まとめ

2号墓は非常に入念な作りをしており、鏡も副葬されていることから、この地域の有力者の墓と考えられます。今回の調査内容は、律令制下における墓制の様相を考える上で、重要な資料になると思われます。（北山峰生）

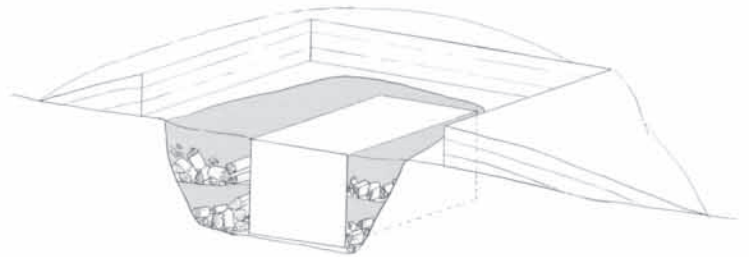
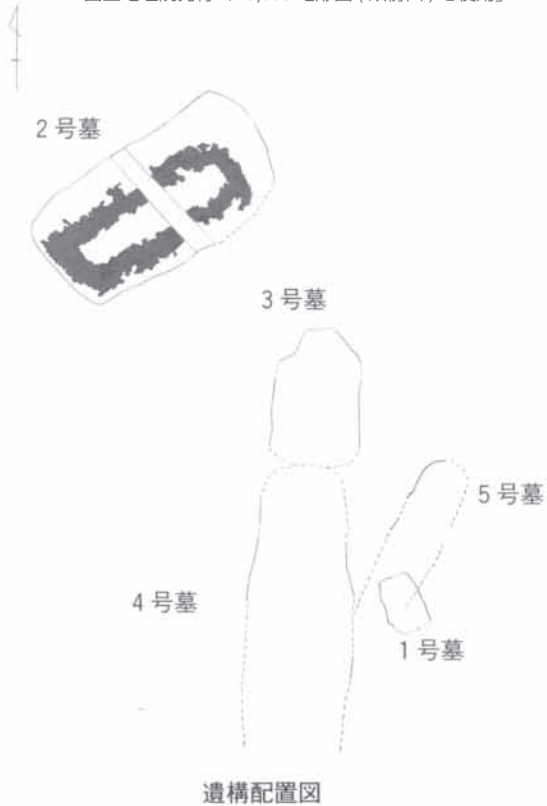


東中谷遺跡の位置

「国土地理院発行 1/25,000 地形図(畝傍山)を使用」



2号墓の全景



2号墓の断面模式図



2号墓出土の八花鏡

高取町 東中谷遺跡 現地説明会資料

2007年1月28日

奈良県立橿原考古学研究所

〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地 Tel.0744-24-1101

<http://www.kashikoken.jp/> (ホームページでも現地説明会の案内・説明内容をご覧いただけます。)